

# 水の詩

2008年 僕は宮城で生まれた  
2011年 東日本大震災  
僕はまだ二歳  
何も覚えていない

2018年 十歳のとき  
初めて津波の写真を見た  
木も家も人も  
怪物のようななどす黒い水に飲み込まれた  
僕の知らない水の姿  
自然も建物も 動物も人間も  
みんな流された  
たくさんの命が奪われた

2023年 十四歳になった僕  
宮城の海も川も 町も人々の暮らしも 活気を取り戻しつつある  
僕の知っている水の姿  
僕たちに たくさんの恵みを与えてくれる  
やわらかく きれいな水  
運動後の一杯  
母のおいしい手料理  
温かいお風呂  
たくさんのお風呂  
たくさんの幸せをありがとう

2028年 僕は二十歳になる  
そのとき 世界はどうなっているだろう  
海や川 町や人々の暮らしは どうなっているだろう  
地球温暖化が進んだ？  
また大地震が起こった？  
未来は分からないけれど  
僕は きれいな水を守っていききたい  
僕たちは きれいな水を守らなければならない  
僕たちの命を支え 命をつなぐ  
かけがえのない 大切な水を



栃木県立聾学校 中学部二年

絵

小菅翔栄

市村淳一